

昨日は節分、豆撒きはされましたか？そして今日は二月四日、立春です。これは、現在の太陽暦では無く、太陰暦を用いていた旧暦で一年を二十四に分けた、二十四節気のうちの、冬と春の境目とされた日です。

他にも、春と夏の境目を立夏、夏と秋の境目を立秋、秋と冬の境目を立冬としています。

この前日のことを、“節目を分ける”と書いて「節分」といい、本来は一年に四日あるのですが、旧暦では立春が新年にあたる年が多かったこと、そしてそれに合わせて豆撒きをする儀式が行われたことから、日本では立春の前日のみを節分というようになりました。

節分の豆撒きの儀式では、「鬼は外、福は内」と声をあげて豆を撒きます。古より、「病氣」や「災害」などの「わざわい」を“鬼”として追い払うという意味で行われていたようです。科学技術や医療が発達した現在と違い、その思いは切実であったと想像されます。目の前のどうしようもない厳しい現実を、“鬼”として少しでも遠ざけたいと願ったことでしょう。

さて、皆さんはどのような気持ちで「鬼は外、福は内」と言っていますか？皆さんにとっての“鬼”は何ですか？自分だけに都合の悪いことや、自分が努力すれば避けられるようなことを“鬼”として「鬼は外！」と言っはいませんか？自分に都合の良いことだけを願って「福は内！」と言っはいませんか？

仏教では、人間は思い通りにならない、苦しみの存在であるとしします。そしてその原因は「貪り」と「瞋り」と「愚かさ」の煩惱にあるとしています。

自分の思い通りにしたいという欲望は「貪り」の心につながります。自分に都合の悪いことや人を嫌い、遠ざけようとして心を乱すことは「瞋り」につながります。自分に都合の良いことしか見ないことは「愚かさ」につながります。

次の節分では、「わざわい」だけでなく、自らの煩惱も鬼として外へ！そんなことを考えながら豆撒きをしてみたいはいかがでしょうか。